

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年7月改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ロジックロス名古屋みなと計画	階数	地上4F
建設地	名古屋市港区品川町2丁目1-2 他	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年2月15日
敷地面積	62,111 m ²	作成者	
建築面積	31,930 m ²	確認日	2023年2月15日
延床面積	124,420 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

= BEE2.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>名古屋市港区に建築される4階建ての物流倉庫である。周辺の環境に配慮し、空地部分は積極的に緑化を図っている。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境に十分配慮している。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 高い階高の確保、積載荷重の割増により、対応性に配慮している。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 空地部分を積極的に緑化し、線による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性能の高い建材を使用している。 LED照明等の高効率な設備機器を導入している。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 リサイクル材やユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃焼機器の使用を避けて、大気汚染防止に配慮している。 周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ロジクロス名古屋みなと計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.11918959	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.011918959
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.059594795	
3. 循環型社会				4.3
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 3.2



3. 循環型社会

評価点 = 4.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。